

## GAOK・韓国自治体主催のK2Hプログラムについて

ソウル事務所

全国市道知事協議会（GAOK）では、海外の地方公務員を招聘し、韓国の自治体で一定期間研修を行うK2Hプログラムを実施しています。そのプログラムについて紹介します。

### 1. GAOK とは？

GAOKとは、全国市道知事協議会（Governors Association of Korea）の通称（以下GAOKとする。）で、韓国の17の広域自治団体長による協議会として、1999年1月に設立されました。

GAOKでは、地域間のバランスの取れた地方発展や地方自治の定着のため、そして国家発展において地方政府が主体的かつ中心的な軸をなすため、さまざまな事業を展開しています。また、2010年に「旧財団法人韓国地方自治団体国際化財団（KLAFIR）」の機能を移管し、GAOKの国際化支援室において自治体の国際化及び国際交流・協力の取り組みを支援する各種事業も展開するようになりました。

GAOKは日本でいう「全国知事会」と「財団法人自治体国際化協会」の機能を合わせた機関といえます。

GAOKは、クリアソウル事務所の貴重なカウンターパートであり、必要に応じて情報交換や交流を図り助け合いながら、良好な協力関係を築いています。

### 2. K2Hプログラム（Korea Heart to Heart Program）とは？

K2Hプログラムの正式名称は「外国地方公務員招待事業」といい、GAOKの国際化支援室の事業の1つとなっています。

1999年に始まって以来、2011年までの間に、18か国から461名の外国地方公務員が参加しています。うち日本は、2006年から参加が始まり、今まで24名が参加し、毎年少しずつ参加者が増えている状況です。

なお、今年2012年は10か国（日本、中国、タイ、モンゴル、インドネシア、フィリピン、カンボジア、ウクライナ、アルゼンチン、メキシコ）から47名の方が参加されています。このうち、中国からは最大の31名が参加されており、日本からは5名が参加しています。

事業の内容は、海外の地方公務員を招聘し、韓国の自治体で研修を行うというものです。

今後海外と交流を開始したい、もしくは姉妹・友好都市との交流をより活性化したいと希望する韓国の自治体の要望を踏まえて、GAOKが日本の自治体に毎年秋に参加者を募集します。募集後、参加者を選抜し、選抜された参加者は翌年4月から6か月～1年にかけて、韓国の受入れ自治体で地方行政及び韓国全般に関する研修を受けることになります。

研修プログラムは、大きくは GAOK が主管する事前研修と、韓国の受入れ自治体が主管する本研修とに分かれます。

事前研修では 10 日間ほど韓国語や韓国文化、韓国の行政に関する講座を受講し、文化体験や地域視察なども行います。

本研修では、受入れ自治体ごとにプログラムは異なりますが、主に、出身国及び出身自治体との交流を深めるための業務支援（交流関連アドバイス、情報収集、交流仲介）などを中心に行います。また、研修の一環として、韓国語や韓国文化をより理解するための講座参加なども用意されています。

### 3. K2H プログラム参加者からの声

このように、GAOK では、豊富で、充実したプログラムを用意し、海外の地方公務員の方々への研修を行っています。

最後に、今年の K2H プログラムに参加したお二人からの生の声を以下ご紹介します。

青森県六ヶ所村主査 高木裕喜（江原道襄陽郡<sup>ヤンヤングン</sup>への派遣）

私が、K2Hプログラムへ参加したきっかけは、私の地元である青森県六ヶ所村と江原道襄陽郡との間で職員相互派遣交流があったからです。青森県六ヶ所村と江原道襄陽郡とは、1999 年度から始まり、職員の相互派遣を始め、高校生のホームステイ、小学生のサッカー交流などで、交流を深めておりました。当村では江原道襄陽郡へ派遣される職員は、韓国の語学学習と生活や慣習などを学ぶために K2Hプログラムに参加することとなっております。

この K2Hプログラムは韓国へ派遣された各国の公務員が参加するプログラムであり、私が参加した時の同期は、中国、東南アジアの方が中心で、その他にもメキシコやウクライナなど様々な国の方が参加されておりました。そのため、各国の方から、自分の生活や慣習、食事様式など、様々な生の情報を聞くことが出来ました。

また、韓国での生活や慣習について話し合いながら、自国との違いについて話を聞き、または共感しあうことでお互いの国について理解を深めていくことが出来ました。このことは、この K2Hプログラムに参加する魅力であると思います。

現在、テレビや新聞、インターネットなどを通して世界各国の情報を取得することが出来ますが、その情報量が多く、自分で正しい情報か誤った情報かを取捨選択をしていくのは難しいものがあります。さらに、間違った情報や偏った情報などを正しいものだと誤解する恐れもあります。私自身も間違った情報や偏った情報を多く持っておりました。ですが、実際に韓国で生活をし、世界各国の人たちから自国についての話を聞くことで、私の持っていた知識を正しい方向へ変えていくことが出来たと思っております。

日本のことわざに、「百聞は一見にしかず」という言葉がありますが、私は K2Hプログラムを通して、その言葉の意味を肌で感じる事が出来たと思っております。

福井県福井市主事 吉田勇也（京畿道水原市への派遣）<sup>スウォンジ</sup>

私の派遣元である福井県福井市と水原市が友好都市 10 周年を迎え、それを契機に今年から派遣交流を開始することになり、それがきっかけで K2H プログラムに参加させていただきました。事前研修において 10 日間程の宿泊型研修を実施したため、他の研修生と十分にコミュニティを形成することができました。つまり、プログラムを通して世界中の友人ができたわけです。また、各自が派遣自治体に戻ったあとも、SNS を通じて情報を交換していたため、お互いの価値観を共有し合うことができ非常に刺激にもなりましたし、派遣期間中にお互いの自治体に訪問することも容易になり、派遣生活がより充実したものになりました。

研修プログラム内容は、事前研修時に韓国の基礎的歴史の学習や名所の訪問、伝統文化体験をすることができ、その後もオンラインによる韓国語学習ができるため、私のように韓国や韓国語についての知識が薄くても十分に対応できる内容でした。研修行事としては、大きく分けて事前研修と修了研修の 2 回ですが、その間にも名所を訪ねるイベントも開かれ、プログラムに参加しているだけでも様々な所を訪問できました。

そして何より、各国の語学が堪能な K2H のスタッフが誰より親身で友好的です。その為、研修自体を楽しんで参加できましたし、他国の研修生との関係を築く架け橋ともなってくれました。派遣生活での悩みなども気軽に相談でき、研修に関係なくプライベートでも旅行を計画するなど、派遣生活を有意義に楽しくしてくれました。

K2H プログラムを通してクレアの皆様との縁もできましたし、今の私にとってはこの派遣生活に K2H プログラムはなくてはならない存在となっています。



2012 K2H プログラム参加者

（長谷所長補佐 富山県派遣）

《参考》

GAOK（全国市道知事協議会）のホームページ <http://www.gaok.or.kr/jap/index.jsp>